

## 1 ごみ処理の概要

ごみ排出の状況:ごみ総排出量は微減、1人1日当たりのごみ排出量は横ばい。

ごみ総排出量 384,489 トン(前年度 393,678 トン) [ 2.3% 減 ]  
 1人1日当たりのごみ排出量 968 グラム(前年度 982 グラム) [ 14 グラム 減 ]

ごみ処理の状況:

総資源化量(再生利用量) 65,735 トン(前年度 65,145 トン) [ 0.9% 増 ]  
 中間処理による再生利用量 33,848 トン(前年度 31,845 トン) [ 6.3% 増 ]  
 最終処分量 48,511 トン(前年度 45,939 トン) [ 5.6% 増 ]  
 リサイクル率 17.1%(前年度 16.6% [ 0.5ポイント増 ])

最終処分場の状況:残余容量は、減少傾向。

残余容量 約 880 千 $m^3$ (前年度 約 935 千 $m^3$ ) [ 5.9% 減 ]

### (1) ごみの排出量

区分	P27ロー関 との対応	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
人口(人)	-	1,119,318	1,112,034	1,102,870	1,095,673	1,087,733
計画収集人口	-	1,119,308	1,112,034	1,102,870	1,095,673	1,087,733
自家処理人口	-	10	0	0	0	0
ごみ総排出量(t)	-	397,394	387,986	397,248	393,678	384,489
計画収集量	A	341,518	332,865	331,414	333,497	324,509
直接搬入量	B	53,683	52,775	62,752	56,981	58,394
集団回収量	C	2,193	2,346	3,082	3,200	1,586
1人1日あたりのごみ排出量(g)	-	973	956	987	982	968
最終処分量(t)	M	47,677	43,930	42,991	45,939	48,511
直接最終処分量	D	2,463	2,418	1,701	2,762	2,869
焼却残さの埋立量	K	37,219	35,052	34,513	35,802	37,360
中間処理残さの埋立量	H	7,995	6,460	6,777	7,375	8,282
中間処理量(t)	-	374,051	363,962	374,237	371,902	359,448
焼却処理量	J	312,893	304,369	312,897	311,775	301,228
直接焼却量	E	298,903	290,617	298,444	297,110	291,962
中間処理残さの焼却量	I	13,990	13,752	14,453	14,665	9,266
焼却以外の中間処理量	F	61,158	59,593	61,340	60,127	58,220
粗大ごみ処理施設の処理量	-	3,596	3,273	3,562	3,654	4,370
その他資源化等を行う施設の処理量	-	41,734	41,325	43,242	41,643	45,004
その他施設の処理量(埋立のための破砕・減容化等)	-	15,828	14,995	14,536	14,830	8,846
総資源化量(t)	N	68,328	66,116	62,594	65,145	65,735
市町村による資源化量	-	66,135	63,770	59,512	61,945	64,149
中間処理後の再生利用量	L	33,084	33,053	31,590	31,845	33,848
直接資源化量	G	33,051	30,717	27,922	30,100	30,301
集団回収量	C	2,193	2,346	3,082	3,200	1,586
自家処理量(t)	-	231	213	0	0	0
リサイクル率(%)	-	17.2%	17.1%	15.9%	16.6%	17.1%

- (注)
- ・ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 集団回収量
  - ・人口は各年度における10月1日現在の住民基本台帳人口。
  - ・集団回収量とは、市町村による用具の貸出や補助金の交付等で市町村に登録された住民団体によって回収された量のこと。
  - ・1人1日あたりのごみ排出量(g) = ごみ総排出量(t) ÷ 計画処理収集人口 ÷ 365日又は366日 × 10<sup>6</sup>
  - ・リサイクル率 = (市町村資源化量 + 集団回収量) ÷ (ごみ処理量 + 集団回収量) × 100
  - ・ごみ処理量 = 直接焼却量 + 焼却以外の中間処理量 + 直接最終処分量 + 直接資源化量

### ① ごみ処理のフロー

一般廃棄物は、市町村等により計画的に収集されるものと、住民から市町村等の施設に直接持ち込まれるものがあります。これらの一般廃棄物の処理は、そのまま直接資源として利用されるもの、焼却や破碎などの中間処理を経て資源化されるもの、中間処理を経て最終処分されるもの、収集後そのまま最終処分されるものに分かれます。それぞれの処理量は次のとおりです。

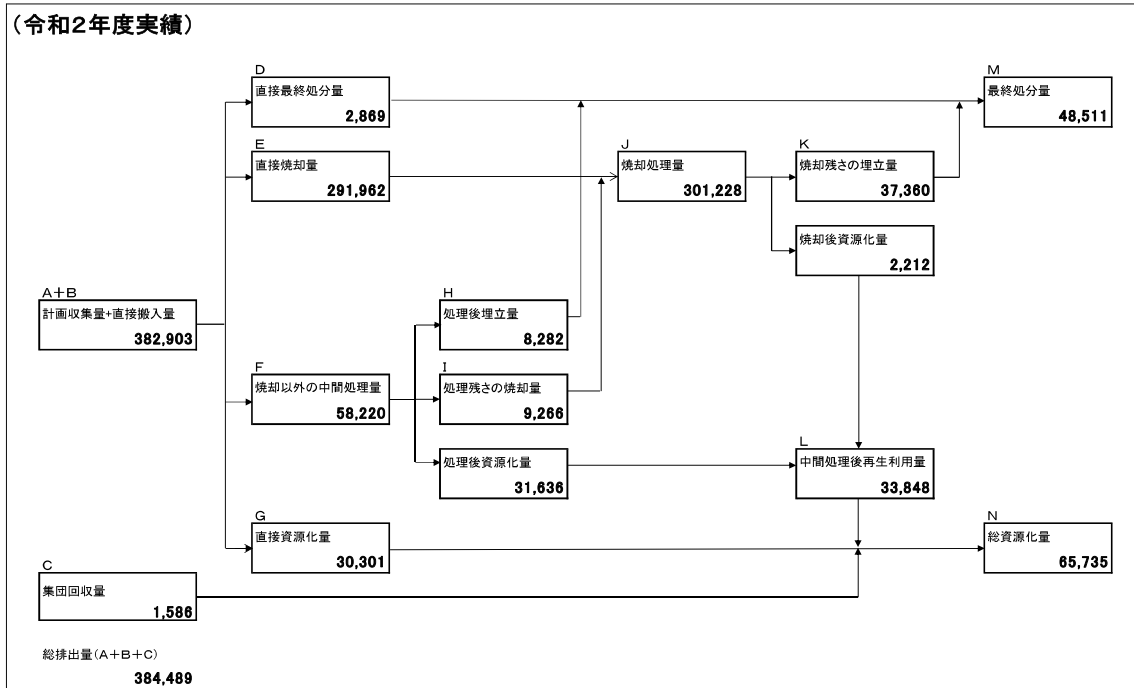


図1 ごみ処理のフロー

### ② ごみの排出量

令和2年度のごみ総排出量は384,489トで、前年度と比較すると約2.3%減少しています。

1人1日あたりでの排出量は968gで、前年度から14g減少し、全国値(901g)と比較すると、67g多い値となっています。

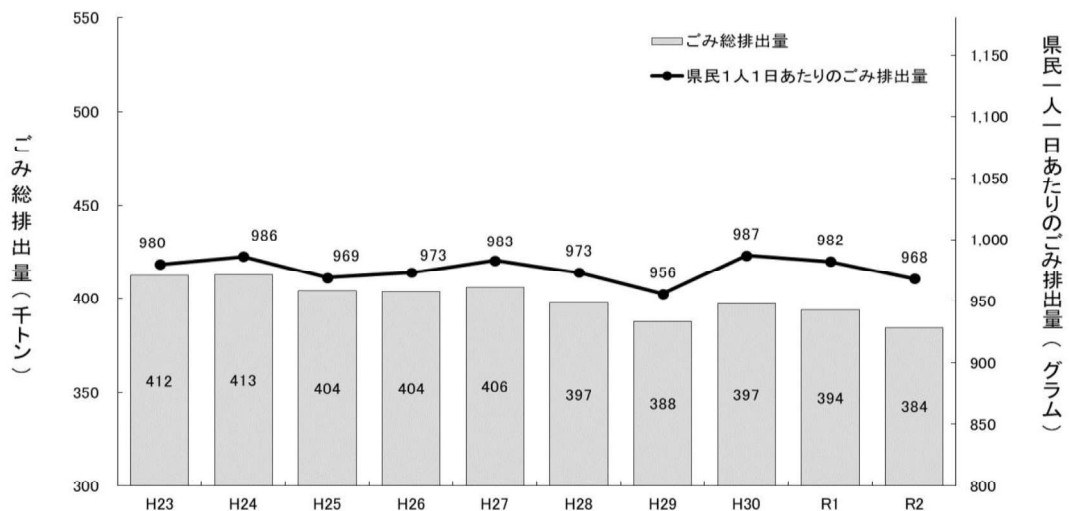


図2 ごみ総排出量と県民1人1日あたりのごみ排出量の推移

### ③ 地区別ごみ排出状況

令和2年度の県内7地区毎の1人1日あたりのごみ排出量とリサイクル率は次のとおりです。

ごみ排出量が最も少ない地区は西諸県地域の 538g/人・日で、最も多いのは日南・串間地域の 1,273g/人・日です。リサイクル率については、西諸県地区が最も高く 26.9%、最も低いのは、延岡・西臼杵地区の 13.1%となっています。

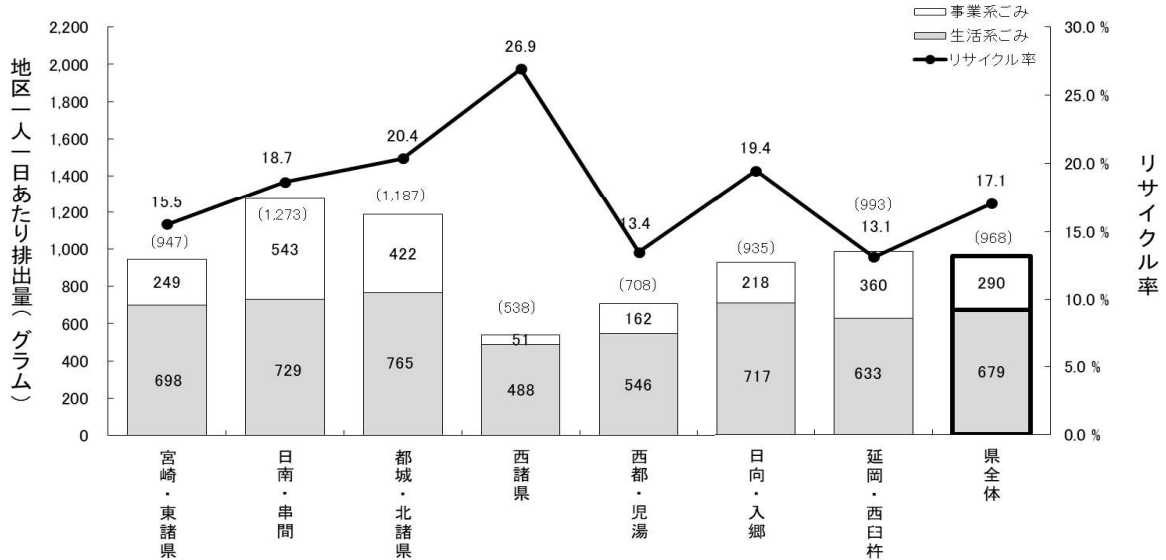


図 3 地区別の1人1日あたりのごみ排出量及びリサイクル率

### (2) ごみ処理による減量化とリサイクル

令和2年度の市町村等による資源化量と住民団体等による集団回収量を合わせた総資源化量は 65,735 トンで、前年度と比較すると約 0.9%増加しました。

リサイクル率は、前年度と比較して 0.5 ポイント上昇し 17.1%となっています。本県のリサイクル率は、全国値(20.0%)と比較すると 2.9 ポイント低くなっています。

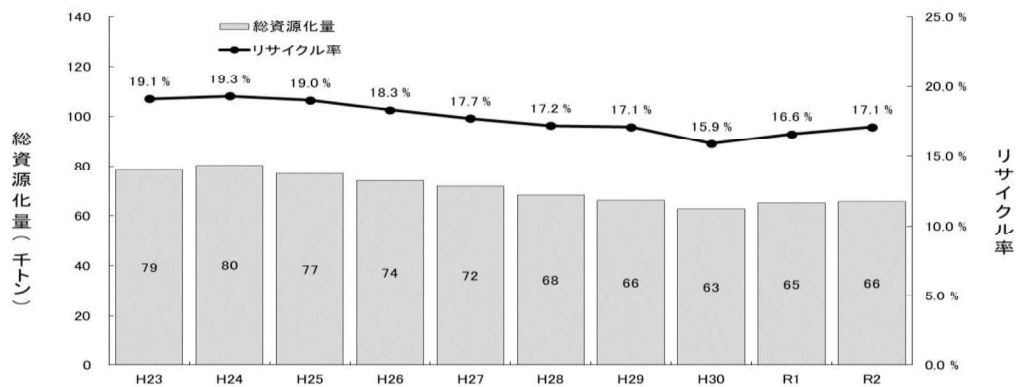


図 4 総資源化量とリサイクル率の推移

### (3) 最終処分状況

令和2年度の最終処分量は48,511ト、前年度と比較すると約5.6%(2,572ト)増加しました。

市町村及び一部事務組合等が設置し、令和2年度末現在埋立を行っている最終処分場は14施設で、全ての施設の残余容量の合計は約880千 $m^3$ です。仮に、令和2年度の最終処分量が今後続くとした場合、最終処分の残余年数は、約14.8年となります。(埋立ごみ比重を0.8163とした場合)

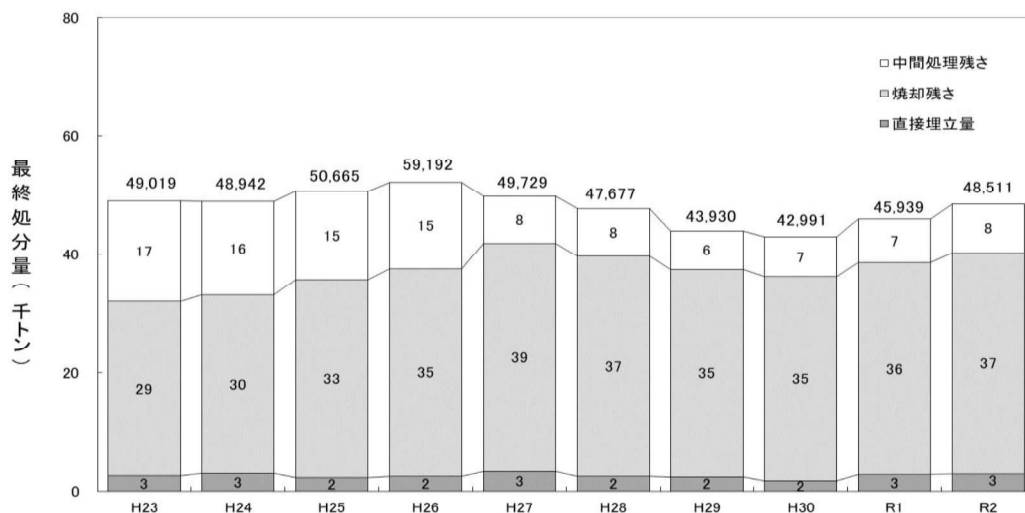


図5 最終処分量の推移

### (4) ごみ処理事業経費

令和2年度の市町村及び一部事務組合等のごみ処理に要する経費(建設改良費を除く)は約138億円で、直近10年間ではほぼ横ばいとなっています。県民一人あたりに換算すると12,672円、ごみ1トあたりに換算すると約35,955円となります。

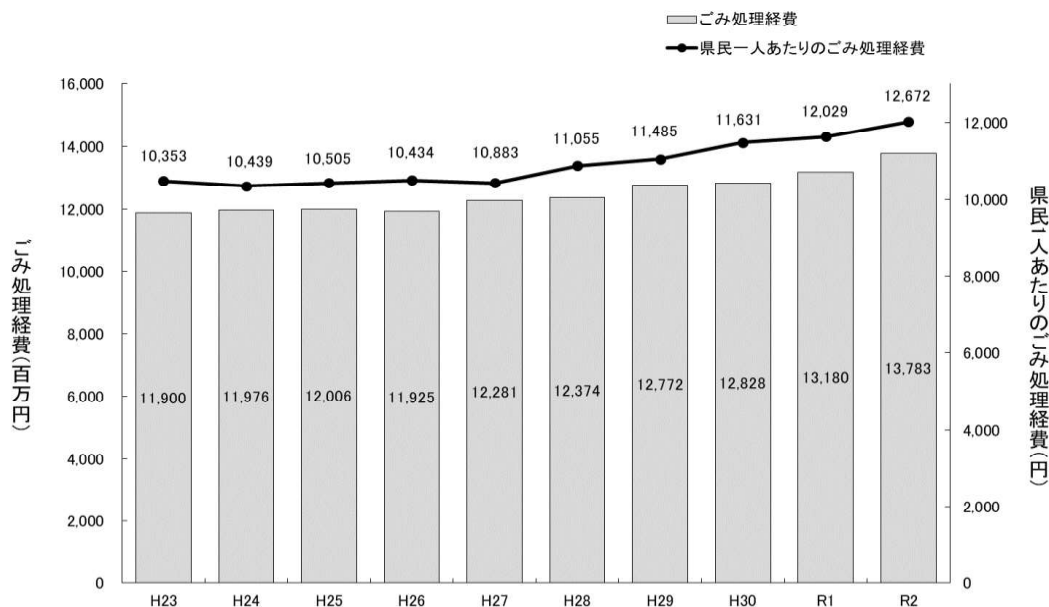


図6 市町村等のごみ処理経費(建設改良費を除く)と県民一人あたりのごみ処理経費の推移